

KATSURA TAKASUKA

「領域をとかす」

第204回aacaフォーラム

「テキスタイルから考えるアートデザインまちづくり」

- ・日時: 3月26日(火)18時～19時30分(受付17時30分～)
- ・講師: 高須賀活良
- ・会場: サンゲツ品川ショールーム 東京都港区港南2-16-4品川グランドセントラルワー4F
- ※講演終了後、会場で軽い懇親会開催(20時00分まで)

私たちは自然に**生かされている生物**の一種でしかない

布

モノづくりの背景 は見えづらくなっている

は他の生物を身に纏うこと

地域

と産業

ハタオリ文化人類学 人類が何万年もやり続けてきたことを見直す

産地とデザイン

境界

なんてないのかもしれない

最初の工場は

手

テキスタイルは**メディア**である

土

自分たちのルーツを掘り起こし **未来** への根とする

から始まり、土に還る



Profile

高須賀活良(たかすかかつら)

アーティスト・テキスタイルデザイナー・野良研究者・ハタオリマチのハタ印総合ディレクター・日本遺産プロデューサーなどの様々な肩書で既成の領域を「とかし」結び付ける実践者

第204回aacaフォーラムのご案内

「街とアートが織りなす出会いの場」その3

「領域をとかす テキスタイルから考えるアートデザインまちづくり」

一般社団法人 日本建築美術工芸協会

会長 東 條 隆 郎

フォーラム委員長 萩 尾 昌 則

拝啓 皆様益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は当協会の活動にご支援を賜り厚く御礼申し上げます。
第204回aacaフォーラムは第202回・203回に引き続き「街とアートが織りなす出会いの場」をテーマに開催いたします。

今回は、テキスタイルデザインを根としながら境界を飛び越えながら多方面で活躍されている高須賀活良さんをお迎えして、その広範な試行錯誤についてレクチャーしていただきます。

多様性が求められる現代においては、既成の枠組みにとらわれない自由な躍動が時には求められます。アーティスト・テキスタイルデザイナー・野良研究者・ハタオリマチのハタ印総合ディレクター・日本遺産プロデューサーなどの様々な肩書きから真の高須賀さんを捕捉することは困難です。高須賀さんは、人と人を紡ぎ、歴史と場所を結い、限界という領域を「こわす」というよりは「とかす」ことで温かく周りを巻き込み熱量の塊を編み出します。まるで膨張する宇宙のように、次々と活動領域を拡張させていきます。

そんな高須賀さんの「今まで」「今」「これから」を存分に語っていただく今回の機会は、きっと参加者の固定概念を「とかす」契機となることでしょう。

敬具

記

「講 師」 高須賀活良 (ファシリテーター:aaca フォーラム委員会 中野 恵美子)

「会 場」 サンゲツ品川ショールーム (品川グランドセントラルタワー4階)

住所: 東京都港区港南2-16-4品川グランドセントラルタワー

「日 時」 2024年3月26日 (火) 受付17:30 講演18:00~19:30

※講演終了後、会場で軽い懇親会開催 (20時まで)

「定 員」 45名 (定員になり次第締め切ります。) (ネット配信は行いません。)

「会 費」 aaca会員2,000円 一般2,500円

※当日会費の受付は行いませんので下記銀行口座にお振込みください。

三井住友銀行 三田通支店 普通8089627

一般社団法人 日本建築美術工芸協会 シンポジウム

※キャンセルの場合、参加費の返金ができませんので ご了承ください。

「申 込」 参加ご希望の方は下記URLから3月20日 (水) までに申込手続を行ってください。

右記QRコード読取でも申込用Webページにアクセスできます。

<https://ws.formzu.net/dist/S453909696/>

「問合せ」 フォーラム委員会 koho@aacajp.com



高須賀 活良 (たかすか かつら)

アーティスト・テキスタイルデザイナー・野良研究者・ハタオリマチのハタ印総合ディレクター・日本遺産プロデューサーなどの様々な肩書きで既成の領域を「とかし」結び付ける実践者

- 1986年東京生まれ。東京造形大学でテキスタイルデザインを専攻し、2011年に修士号を取得。
学生時代から日本の縄文時代から続く原始布の研究を行い、日本各地の伝統技法や素材に基づく研究・制作を展開。
- 大学院修了後、山梨県工業技術センターで臨時職員として勤務し、織物産業の振興に貢献。2013年からは東京造形大学や武蔵野美術大学で助教や非常勤講師などとして活動。
- 2014年には「世界で活躍するテキスタイルを使ったアーティスト21人」に選ばれイギリスの産業革命時代の遺跡saltmillで展示を行うなど、国内外で作品を発表。
- 2016年には山梨県富士吉田市・西桂町の織物産業と観光・文化を結びつけるプロジェクト「ハタオリマチのハタ印」を立ち上げ、行政と民間企業が共同で多角的なプロモーションを行い、織物産地の活性化に取り組んでいる。同年、福井県の廃業寸前のリボン工場を再生するプロジェクト「レビヤンリボン」を立ち上げ、併設の手芸カフェ「Ribbons Cafe」や工場見学、手芸体験も開始。2021年には、アートとテキスタイルの芸術祭「FUJI TEXTILE WEEK」で産地ディレクターとして活躍し、1000年以上の歴史を持つ産地と新しい可能性をつなぐ展示会を企画・運営し、広い反響を得た。
- デザインやディレクションだけでなく、文化人類学的な視点から日本各地の地域文化や技術を研究し、地域ブランディングや場作りにも積極的に関わりながら、その地域にある独自の日本文化を世界に発信している。

